

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	眼窩骨折に合併した黄斑円孔の発生率とその臨床上的特徴
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	眼形成・眼窩・涙道外科 教授(特任) 高橋靖弘
研究の対象となる方	2013年5月から2023年12月までに眼窩骨折と診断された患者さん
研究期間	研究実施承認日 ~ 2025年8月31日
研究目的及び利用方法	<p>[研究目的]</p> <p>眼窩骨折は目が収まるくぼみである眼窩の骨が折れる疾患です。目を打撲すると起こりますが、骨が折れることで目にかかる圧力が骨折部から逃げることによって目を守る一種の防御反応としても働いています。目をぶつけると目の奥にある網膜が引き延ばされて、網膜の一部である黄斑部に孔が開くことがあります。しかし、眼窩骨折の患者さんではこれが起こりにくいと考えられています。本研究では、眼窩骨折に合併した黄斑円孔の発生率とその臨床所見の特徴を調べることを目的としています。</p> <p>[利用方法]</p> <p>診療情報の収集目的で、カルテを利用します。またCT画像も確認します。</p> <p>[外部への試料・情報の提供]</p> <p>非該当</p> <p>[外部への提供開始日]</p> <p>非該当</p>
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	<p>試料：非該当</p> <p>情報：診療録(カルテ)から、年齢、性別、左右、受傷原因、視力、光干渉断層計所見に関する情報を収集。また眼窩骨折の状態の確認にCT画像を用います。</p>
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	非該当
試料・情報を利用する学外の者	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2025年2月28日までに電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。

場合	
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者：(職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 12314)